

銀漢亭日録



伊藤伊那男

6月29日(日)

▼雷雨の中、十七時、赤坂「うち田」。大野田好記君の紹介の店で今夏三回目。家族及びその学校仲間で大八人、子供八人貸し切り。好記君、子供達が飽きないようお絵描き帖やトランプなど用意してくれる。鰻料理。酩酊。帰宅してバタン。

7月1日(火)

▼六月の月次表作成。彗星集選評など。店、やはり閑散。阪西敦子さん今日から青山勤務と。七夕短冊の飾り付け。(涸らび初む笹も笹竹売りの声も)新潟の阿部静雄氏(角川賞作家)より電話あり、新潟日報連載の私の食物エッセイ楽しいと。

2日(水)

▼窪田明氏より、今年また、さくらんぼ到来。超弩級というべき凄さ。他のさくらんぼと並べると横綱と幕下。十五時半、オリックス時代の上司、中野さん店へ。鎌倉「和賀江」の会員。入沢、矢野春行子さんグループ。発行所「きさらぎ句会」九人。「宙句会」と七人来てシャンパンで早めの私の誕生日祝ってくれる。「はてな句会」と岸本尚毅、敦子、文子さんなど。対馬康子さん、若手俳人四人。……厨房忙しく挨拶できず。皆川文弘さん会社の同僚と。野村證券北京にいた川畑保さん、野村土地建物の加藤さん他と。川畑さんようやく「銀漢」入会。加藤さんは昨日来ていた中村宗男さんと同期と。伊那北高校後輩で野村総研の有賀さん、「宙句会」に二回出て今日入会。武田編集長に八月号の原稿渡す。これで全部。

4日(金)

▼「大倉句会」と十一名。清人さん酒。羽久衣さん特級のさくらんぼ。遠藤さん米沢の焼豚どかんと。岬さん枝豆山ほど……。豊穣な持ち込みの品々。店用のズボン、桃子がユニクロに買いに行ってくれる。「股下六十七センチって本当? 正明は七十八センチなんだけれど」と問い合わせの電話あり。「ホント……」(股丈の好みもあろうが……)。

5日(土)

▼「銀漢亭Oh! 納涼句会」二十九名。半分以上が他結社の俳人というところが面白い。兼題五句でスタートし、三句出しの席題句会を二回。シャンパンで乾杯。清人さん鮪の刺身、焼きそばを。幹事の朽木直さん腰痛を押して仕切ってくれる。一斗さん補助。あと十人程で「もちぶたや」。

6日(日)

▼午後、中野サンプラザにて「春耕同人句会」。季刊「詩歌句」(北溟社)へ十句とエッセイ。「俳句」九月号に若井新一句集『雲形』の一句鑑賞文送る。

7日(月)

▼六十五歳誕生日。またもや雨の七夕。誕生日として洋酔さんはじめ仲間が集まって、シャンパンやケーキで祝ってくれる。「俳句界」の七夕の集いのあとの水内慶太、加茂一行、祐森水香、山田真砂年さん寄ってくれる。発行所は「かさ、ぎ俳句勉強会」、あと十二名来店。などなど賑やか。

8日(火)

▼返信の手紙、礼状など雑務で昼まで。店「火の会」広渡詩乃(朝)、卓田謙一(りいの)、飯田冬真(未来図)、太田うさぎ、今井肖子(ホトトギス)、佐怒賀直美(風の道)、峯文世(銀化)、阪西敦子(ホトトギス)、梅田津(銀化)、入れ替わりはあったものの

十年近くなるので今後どうするかを問う。全員、継続希望。改善案出し合う。朝妻力さんより電話。本日、東吉野「天好園」にて故藤本安騎生氏を偲ぶ会。ちょうど新潟の友人が送ってきた私の食物エッセイの蝮酒の話で安騎生氏を語っていたので会で披露したと。

9日(水)

▼「運河」編集長・谷口智行氏と電話替わり、同誌に転載したいと。もちろんOK。嬉しいこと。

10日(木)

▼沖縄は台風で大荒れと。午前中、平成俳壇の選句など。「梶の葉句会」選句へ。店、閑散。

11日(金)

▼平成俳壇仕上げ発送。やれやれ……。店、宮澤、伊勢神宮の河合禰宜他と。河合氏、文化部長、「神宮徴古館・農業館」館長に栄転。購読会費払って下さる。台風の影響で客少なし。台風は予報外に静か。虎ノ門ヒルズに吟行したという、うさぎさん他六人程がなだれ込む。

12日(土)

▼十時より運営委員会。十三時より「銀漢本部句会」五十七人。あと「随一望」にて親睦会。武田編集長の誕生日に当たったので幹事がバースデーケーキを用意。

13日(日)

▼終日家。休養日。やや疲れがたまっていたか。川村悦子(妻の従姉妹、画家)の展覧会行けず。上京中の悦子に電話で詫げる。一家で夕食。莉子の友達二人泊まり。学校はもう夏休みである。

14日(月)

▼暑い。家族はデイズニールランドへ。店閑散。祐介、朝ギックリ腰とて急遽、いづみさん登板。閑散。

15日(火)

▼祐介まだ駄目。今日は小石さん、明日は初子さんに代打を頼み込む。禪次、直、硯児さんなど。「秋麗」

藤田直子さん他六名、句会の帰路と。てる緒さんバラと。太った!

16日(水)

▼閑散。森濱、皆川文弘、酔馬さんと書道の宗介先生、「三水会」の日を間違えた上羽場君。硯児さん会社の女性と。俳句へ誘導中。

17日(木)

▼十七時、「爽樹」の方々、小山徳夫氏から川口襄氏へ代表交替の会、十三人。「銀漢句会」あとの親睦会十八人。新潟日報の大日方氏と友人、などなど。祇園祭に行った洋酔さんから千本釈迦堂のほけ封じのお守り、他の方からお土産。

18日(金)

▼洋酔さん第二句集の跋文、谷岡健彦氏の第一句集の序文、校正稿届く。店、「葛句会」あとの暑氣払いに八人。他は閑散。九時半に閉めて洋酔、健彦氏他と餃子屋。零時前帰宅は久々のこと。

19日(土)

▼昼、銀座壺番館ビル「思文閣ギャラリー」。川村悦子「連×聯」展を見る。日本橋にてたまたま棚山「春耕」主宰と行き会う。あと日本橋「与志喜」にて「纏句会」。久々、好成績。あと、冬瓜と海老のくずあん、鰯煮付。題の鰯の天ぶら。酒は播州の酒。追加で山口の「東洋美人」。握り。あと渋谷に出て「鳥竹」にて鰻の串など。もう一軒廻り、その間、エッセイの下書き二本。ただし酔っている。経営駅で祭囃子を耳にして下車。「経営まつり」で阿波踊りの行列の最中。若者の踊り手が健気で上手でふと涙ぐむ。ああ、酔っている。